

グローバルアウトソーシング市場に関する調査結果 2016

—企業活動のグローバル化加速により、グローバルアウトソーシング市場は拡大—

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にてアウトソーシング世界市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2015年12月～2016年2月
2. 調査対象:グローバルアウトソーシング事業者(SIer、システム運用保守事業者、データセンター事業者、BPO事業者等)
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・Eメールによる取材、ならびに文献調査を併用

<グローバルアウトソーシング市場とは>

本調査におけるグローバルアウトソーシング市場とは、「システム開発・統合サービス」、「システム運用管理・データセンターサービス」、「BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)サービス」の3つのアウトソーシングサービスの世界市場を指し、事業者売上高ベースで算出した。

<日本国内向けオフショアサービス市場とは>

本調査における日本国内向けオフショアサービス市場とは、グローバルアウトソーシング市場の内数として、日本国内向けに提供された、オフショア(海外)拠点での「システム開発・統合サービス」と「BPOサービス」を指す。日本国内向けオフショアサービス市場規模は、アウトソーシング事業者が他社のオフショア拠点を活用した外注費用と自社のオフショア拠点を活用した内部費用を合算し、事業者コストベースで算出した。

【調査結果サマリー】

◆ 2019年度のグローバルアウトソーシング市場は1兆2,383億44百万米ドルと予測

為替変動によるリスク回避や、ビジネスのグローバル化に伴い、企業の海外展開やM&Aで海外企業をグループ化する動きが拡大しており、企業活動におけるグローバル化が急速に加速している。これにより、経営の効率化やグローバルでのガバナンス強化等の観点から情報システムを開発・統合する動きが進んでいる。また、その際の取引の条件としてBCP(Business Continuity Plan)/DR(disaster recovery)の整備が必須となるため、世界各国においてシステム運用管理・データセンターサービスへの需要が高まっている。

世界のアウトソーシング事業者各社は、各国にデリバリーセンターを設置し、グローバルでのサービス展開を加速しており、2014年度から2019年度までのグローバルアウトソーシング市場規模(事業者売上高ベース)は、年平均成長率(CAGR)5.1%で推移し、2019年度には1兆2,383億44百万米ドルに達すると予測する。

◆ 2019年度の日本国内向けオフショアサービス市場は16億78百万米ドルと予測

日本国内のアウトソーシング事業者やユーザ企業においても、オフショア(海外)拠点における開発・統合サービスやBPOサービスの利用が拡大している。オフショアでのカントリーリスクや人件費高騰などから一部のアウトソーシング事業者では、リショアリング(再び拠点を日本に戻すこと)の動きが見られるものの、多くのアウトソーシング事業者が海外人材を活用した人件費の抑制に努めている。2014年度から2019年度までの日本国内向けオフショアサービス市場規模(事業者コストベース)は、年平均成長率(CAGR)3.6%で推移し、2019年度に16億78百万米ドルになると予測する。

◆ 資料体裁

資料名:「グローバルアウトソーシング市場の実態と展望 2016」
 発刊日: 2016年2月17日
 体裁: A4判 297頁
 定価: 150,000円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail:press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

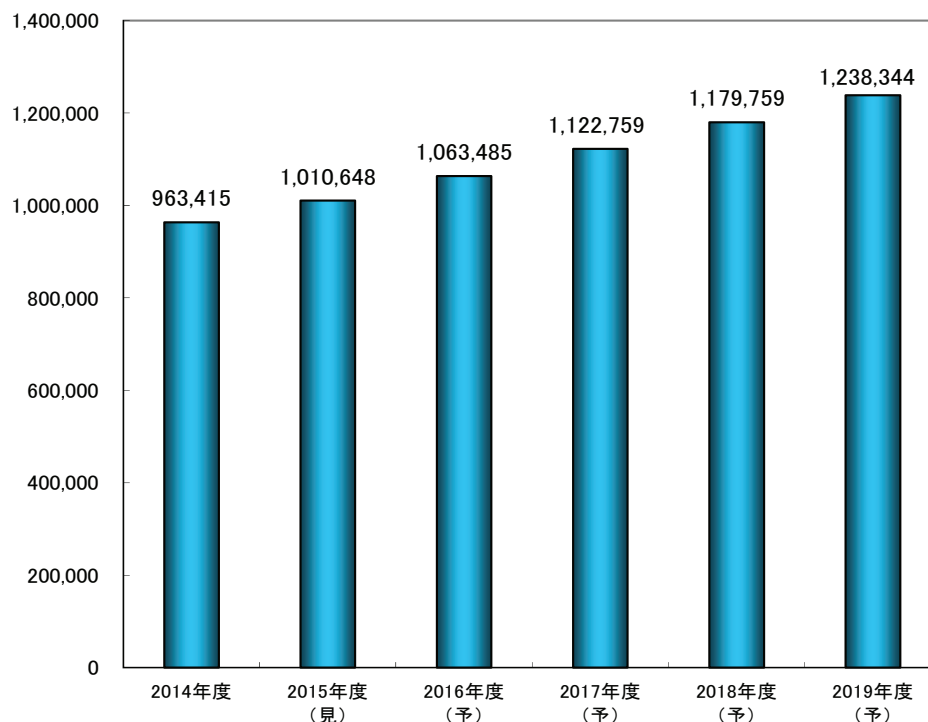
【調査結果の概要】

1. グローバルアウトソーシング市場概況

- グローバルアウトソーシング市場とは、「システム開発・統合サービス」、「システム運用管理・データセンターサービス」、「BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)サービス」の3つのアウトソーシングサービスを対象としており、世界のアウトソーシング事業者の売上高ベースで市場規模を算出した。
- 為替変動によるリスク回避や、ビジネスのグローバル化に伴い、企業の海外展開や M&A で海外企業をグループ化する動きが急速に拡大しており、企業活動におけるグローバル化が加速している。これにより、経営の効率化やグローバルでのガバナンス強化等の観点から情報システムを開発・統合する動きが進んでいる。
- 企業間の取引がグローバル化しているが、その際の取引の条件として BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)/DR(disaster recovery:災害復旧)の整備が必須となるため、世界各国においてシステム運用管理サービスやデータセンターサービスへの需要が高まっている。
- 日本国内においては、人口減少や高齢化の影響から国内マーケットの大きな成長を見込めなくなっているため、海外進出を図る日系企業が増加しており、それに伴いワールドワイドでのアウトソーシングサービスへの需要も拡大している。
- このような顧客企業のグローバル展開の活発化にともなって、世界のアウトソーシング事業者各社は、各国にデリバリーセンターを設置し、グローバルでのアウトソーシングサービス展開を加速している。今後も成長率が高いのは APAC(Asia-Pacific、アジア太平洋地域)であり、次に南米地域において、アウトソーシングサービスの利用が増える見通しである。
- 2014年度のグローバルアウトソーシング市場規模(事業者売上高ベース)を9,634億15百万米ドルと推計した。2014年度から2019年度までの同市場は年平均成長率(CAGR)5.1%で推移し、2019年度には1兆2,383億44百万米ドルに達すると予測する。

図1. グローバルアウトソーシング市場規模推移予測

(単位:百万米ドル)



矢野経済研究所推計

注1:事業者売上高ベース

注2:2015年度は見込値、2016年度以降は予測値

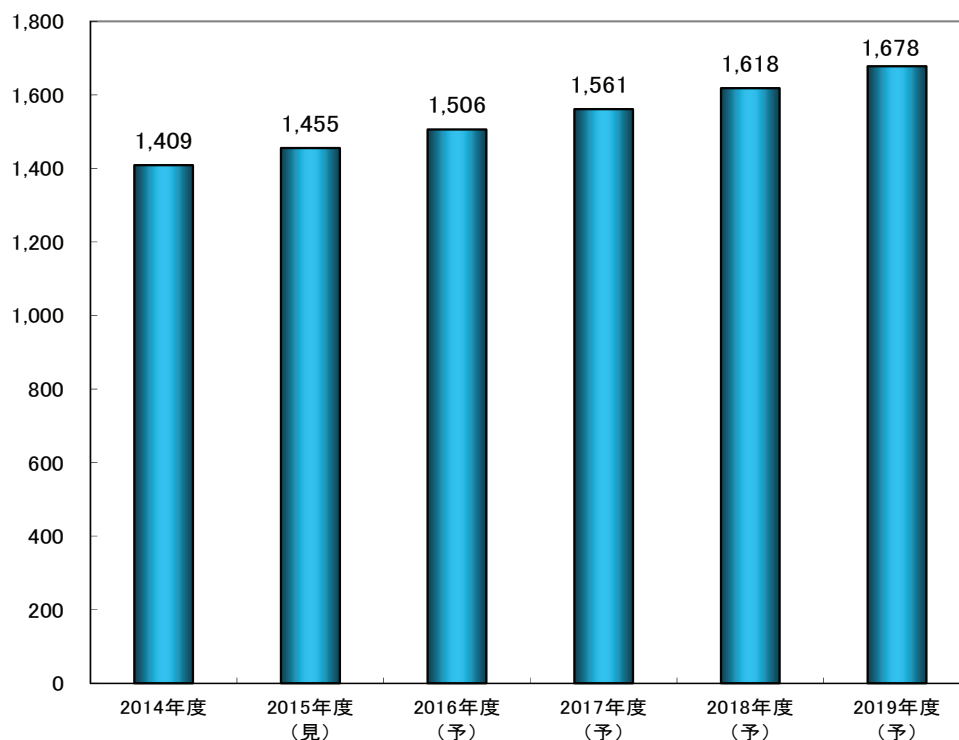
注3:グローバルアウトソーシング市場とは、「システム開発・統合サービス」、「システム運用管理・データセンターサービス」、「BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)サービス」の3つのアウトソーシングサービスの世界市場規模を指す。

2. 日本国内向けオフショアサービス市場概況

- 日本国内向けオフショアサービス市場とは、グローバルアウトソーシング市場の内数として、日本国内向けに提供された、オフショア(海外)拠点での「システム開発・統合サービス」と「BPOサービス」を対象とした。2014年度の日本国内向けオフショアサービス市場規模(事業者コストベース)を14億9百万米ドルと推計した。
- 日本国内のアウトソーシング事業者やユーザ企業においても、オフショア(海外)拠点におけるシステム開発・統合サービスやBPOサービスの利用が拡大している。オフショアでのカントリーリスクや人件費高騰などから一部のアウトソーシング事業者では、リショアリング(再び拠点を日本に戻すこと)の動きが見られるものの、多くのアウトソーシング事業者やユーザ企業が海外人材を活用した人件費の抑制に努めている状況に変わりはない。
- 日本国内向けオフショアサービス市場を地域別に見ると、オフショア拠点として中国の占める構成比が75%程度と高い。カントリーリスクの影響からオフショア拠点を中国から他の国に移管することを検討しているアウトソーシング事業者は多いが、日本語が出来る人材を中国よりも豊富に抱えている国は他にないため、今後も中国は国内向けのオフショアサービス拠点として一定のコスト規模を保持していくと予測する。
- 但し、今後は東南アジアにおいても、日本国内向けのオフショア拠点が増えていく見通しである。課題と言われていた情報インフラ整備も進んできているため、国内向けのオフショアサービス拠点として東南アジア地域の利用が進んでいく可能性が高いと考える。
- 2014年度から2019年度までの日本国内向けオフショアサービス市場規模(事業者コストベース)は、年平均成長率(CAGR)3.6%で推移し、2019年度に16億78百万米ドルになると予測する。

図2. 日本国内向けオフショアサービス市場規模推移予測

(単位:百万米ドル)



矢野経済研究所推計

注4: 事業者コストベース

注5: 2015年度は見込値、2016年度以降は予測値

注6: 日本国内向けに提供されたオフショア(海外)拠点での「システム開発・統合サービス」、「BPOサービス」を指し、グローバルアウトソーシング市場の内数である。日本国内向けオフショアサービス市場規模は、アウトソーシング事業者が他社のオフショア拠点を活用した外注費用と自社のオフショア拠点を活用した内部費用を合算した。